

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270200161		
法人名	株式会社菱南		
事業所名	ケアブレッジ下田(1階ささなみ、2階磯の香 2ユニット合同)		
所在地	静岡県下田市5丁目6番58号		
自己評価作成日	平成25年9月26日	評価結果市町村受理日	平成25年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2270200161-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2270200161-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな高台に位置し、窓から山々の木々と海が眺望できる風光明媚な地に建っています。家庭菜園では季節の野菜を収穫し、新鮮な野菜を使った食事を提供しています。玄関まで坂道が続いているため車を利用しての外支援助に力を入れ、外食をはじめ地域の祭りや行事への参加、花の名所である公園に出かけ、地域の人とのふれあいや季節の花の鑑賞など自然と触れ合える時間が持てるようになっています。利用者と職員がアットホームな関係を築き、利用者の笑顔がたくさん見られるよう個別ケアの実践と環境づくりを行い、ゆったりと個人のペースでその人らしく過ごせる生活スタイルの確立をめざしたサービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台の自然豊かな環境に恵まれた環境にある事業所です。建物内は清掃が行き届き、ケージで飼育された愛らしいウサギが出迎えてくれます。事業所内では体操や口腔ケアなど機能低下を防ぐ取り組みがおこなわれ、午後はカラオケで一緒に楽しんだりしています。ドライブ旅行も毎週のように出かけ、市内の様々なイベントに参加したり、遠く伊東市まで出かけて外食することもあります。、外出時には職員人員を手厚くするなどして、全ての利用者ができる限り参加できるように工夫しています。職員の離職が少ないことも特徴で、新入職員を支え、人間関係での負担や不安を軽減することで就労しやすい環境が実現されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員研修の内容にも理念の共有を取り入れ理解を深めている。各ユニットごとに理念を掲示し、見やすく意識しながら仕事ができるよう環境を整えている。	理念は職員が話し合っ作成し、定期的に見直しをしています。新人職員研修マニュアルにも事業所の理念について記載され、新入時は研修を通じて浸透に努めています。理念は1階玄関や2階入り口にも掲示されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前暮らしていた施設などと連絡を取り合い、関係が途切れないよう行事に参加するなどして交流を深めている。	地域の防災会で小学生が事業所に訪問したり、中学生のボランティア体験も受け入れています。利用者は一緒に会話したり、自分と同じ学校出身であることを聞いたりして交流しています。またヘルパー養成講座の実習など、地域の様々な人との関わりが継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時や問い合わせ時にホームに来て頂き認知症に対して、どのような支援をしているのか説明し、認知症に関する相談業務も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容は、家族・職員に報告するだけでなく意見を聞き、サービスの向上にいかしています。	従来は法人内の事業所と合同開催していましたが、25年度から単独で開催するようになりました。予め家族に出席を確認したり、各職種の職員が参加することで距離感も近くなり、「参加しやすくなった」という声もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	時間がある限り市役所に出向き、話し合いや相談の場を設けている。	市健康福祉増進課や市地域包括支援センターと連携し、窓口で要介護に関わる相談をしたり、新規利用に関する問い合わせを受けることもあります。災害時には被災状況について行政と連絡を取り合っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の人数が多い時間帯は開錠し、立地条件上夜間のみ施錠している、身体拘束の研修等にも参加し、職員間で情報を共有し理解を深めている。	早朝や夜間など職員が2名の時には安全のため施錠しています。帰宅願望のある利用者には、家族に状況を報告することでリスクを理解してもらい、束縛せずに自由に移動できるようにしています。職員は身体拘束排除の研修会に参加し、事業所内で報告しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から入居者の状態観察を行い、虐待行為がないよう注意を払っている。虐待行為の説明も職員に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族や本人より権利擁護に関する問い合わせがあった時には説明できる体制を整えている。また、権利擁護の研修にも参加し、学んできたことを職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書をていねいに説明し、利用者や家族等の理解と納得を得たうえで手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には普段の様子を家族に伝え、毎月1回家族あてに利用者の様子を書いた手紙を出している。運営推進会議で出された家族等の意見を運営に活かしている。	毎月1回、家族に身体状態やイベントへの様子などを詳細に報告することで、事業所の運営状況について理解し易いようにしています。運営推進会議への参加をきっかけとして、自主的に染物教室を開催してくれるなど、家族の関わりが増えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の運営や大事な決定事項に関して、利用者の状況やサービスの実情を知っている職員の意見を十分に聞き生かしていくことを大切にしています。	職員ごとに個人目標を設定し、自己評価する取り組みを始めました。その結果、職員の介護に対するの自覚が向上し積極的な発言がみられています。以前からも職員は忌憚なく意見を挙げていましたが、例えばアクティビティケアなど、より専門的に提案するようになっています。	職員の定着率も高いことから、後進育成を視野にいれたリーダー研修の参加等、組織の盤石推進を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年1回個人面談を行い、一人一人の職員からヒヤリングをしている、また代表者は管理者等から日頃の勤務状況の報告を受け職員の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務などの調整を行い、多くの職員が研修に参加できる体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地区研修会、地域の介護事業所による合同研修会やリハビリテーションセミナーなどに参加し、他の同業者と交流を深め、意見を交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人から、以前の生活状況を細かく聴き、職員間で情報を共有し、本人と良い関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って話をしっかりと聴き、信頼関係を築くことに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前に得た情報により、事業所のサービス内容を本人と家族に伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな介護の場面においても常に利用者と一緒に考え、寄り添いながら毎日を過ごし、喜怒哀楽を共に感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望時には家族に電話連絡でき、家族と会話することで安心して頂いている。 職員は利用者の状況を家族に報告し、支援方法について意見を伺いながら本人を支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで愛用していた物を持ち込んで頂いている。外出支援で馴染みの場所を訪問している。	入居後には時期を見計らって、できるだけ自宅周辺に行けるようにしています。例えば馴染みの商店にも立ち寄ることで「久しぶりだね」などの声もあがり、従来の関係を維持できています。また事業所で開催するイベントには家族を招き、一緒に過ごす時間をとることで関係が途絶えないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、日々の生活が円滑に送れるよう職員が間に入りながら、利用者同士の関係作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、病院や施設等へ面会に行き、どのように過ごされているかを確認している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを把握するよう努めている。また物事の決定は本人の思いを尊重し、難しい場合は職員や家族と一緒に考えている。	入居時に十分にアセスメントし、従来の生活習慣を把握したうえで意向をくみ取る様になっています。発語が困難な利用者には、表情から意思をくみ取ることができるように、職員のコミュニケーションスキルの向上に努めています。把握できた意向は記録に残したり、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューとアセスメントにおいて本人の情報収集に努めサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方の実態把握を行い、職員会議・ケアカンファレンスなどで現在の状態や問題点を話し合い、改善するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、家族や本人から意向を確認し3ヶ月おきに見直しを行い、計画を作成している。モニタリングは担当制で3ヶ月に1回実施、再アセスメントは6か月に1回実施し、サービス担当者会議も行っている。	サービス担当者会議にはユニットリーダー、計画作成担当者、管理者、ケアマネジャーらが参加しています。担当者会議に家族が参加することはありませんが、事前に意見を聴取したり、原案を説明して同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は誰が見てもわかるように記入方法を統一し、介護支援経過記録と申し送りノートを使用し全職員が情報を共有できるような体制を作り、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業者は2つのホームを運営しているため、利用者の状態に応じて、柔軟な対応を取っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災訓練に参加し、必要な地域資源との連携を持ち対応している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族本人に確認の上、主治医と連絡を取っている。主治医が事業所の協力医でない場合は、家族と連絡を取り合い情報を共有している。	月1回、協力医の訪問診療がおこなわれ、普段から利用者の状況を把握している医師からも頻りに連絡があります。本人家族の希望により、従来のかかりつけ医を利用している利用者もいますが、急変時にはできる限り職員が通院介助をすることで、利用者の不安を取り除いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師はいません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行き、医療関係者から本人の状況を確認し、様子を伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は看護師がいないため、看取りケアは行っていない。看護職員を募集しているため、確保後には看取りについて行う方向である。	家族からは「ここで(最期まで)お願いします」という希望もありますが、看護職員の不在もあり、看取り介護ができる体制が整っていません。また、福祉機器などハード面でも重度の介護状態に対応できていないため、積極的な受け入れはできていません。	看護職員が雇用され、定着されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時の対応ができるようマニュアルを作成している。定期的に訓練や講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時職員行動マニュアルを定期的に見直し実情にあったものを作成している。年2回の防災訓練を行い災害時に備えている。家族や地域住民にも参加を促している。	防災訓練には家族や地域からの参加も得て、夜間想定訓練もおこなっています。災害時に孤立することを想定し備品の品数を増やしたり、発電機を購入しました。人数分のヘルメットの他に防災頭巾も備えるようにしました。地域の防災訓練にも参加し、一緒に炊き出しなどしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のため入浴は個浴とし、ゆっくりと一人の時間を楽しめず。また、居室ではのんびりと過ごせるよう廊下から居室内を見られないよう扉を閉めておくよう常に注意を払っている。	独りの時間を大切にできるように、個室の扉は閉めるようにしています。プライバシーに配慮するため、常日頃から職員間での会話も利用者の前でしないようにしていたり、生活歴を尊重した接遇を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定がしやすいように選択してもらったり、自己決定が難しい人にはその人の立場に立った考えや働きをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを把握し、寄り添ったケアの提供を行うため、その日の利用者の状態に合わせて、起床時間や食事時間は一人一人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて髪染めを行ったり、好きなようにお化粧が出来るよう、道具を居室に置いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と相談しながら決めている。食事作り、盛り付け、食器洗いは利用者と一緒にやっている。すでに日課となっている利用者は職員が声をかけなくても自発的に台所に立っている。	食材の買い出しには利用者を出かけています。メニューによっては利用者も調理に加わることもあり、片付けも一緒におこなっています。毎日の習慣として定着しているため、役割を担っているという自信が感じられました。四季ごとに行事食を提供し、見た目にも季節感が醸し出されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった摂取量を把握し、必要な栄養が摂れるようにしている、摂取方法としては刻み食やミキサー食など、利用者の状態に合わせて、食べやすい工夫をし、水分などもトロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいの出来ない人などは、歯ブラシで汚れを落としたり、ガーゼで口腔内の清潔を保ち、毎食後、口腔ケアを行っている、また、義歯使用の人には定期的に入れ歯洗浄剤を使用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存能力を見極めたうえで一人一人の排泄方法を考え、スムーズに排泄できるようにしている。また排泄表を作成することで、排尿パターンを把握し、その人に適したパットやおむつの種類を選んでいる。	個々の排泄状況によって、時間ごとにパットやおむつの種類を検討しています。夜間は利用者の負担軽減のため、家族と話し合ったうえでPTイレを使用することもあります。放尿や弄便などの課題に対しては、職員がその都度意見を出し合って改善に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には定期的に牛乳を摂取してもらい、おむつ着用の方に関しては、トイレに座って頂き自然排便ができるようにしている。下剤により排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時には必ず声をかけ意思を確認し、時間などの希望がある時は順番を調整している。入浴剤や季節湯でその時々を季節を楽しんでいる。	介助浴槽を完備し、浴槽の上半分が扉で開閉できるようになっています。利用者ごとに希望する入浴時間に応じ、好きな日時に入浴できるようにしています。利用者の身体能力に応じて2人で介助することもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れている様子などが見受けられた時には声かけをし、居室でゆっくりと休息してもらっている。自身で居室で過ごせる時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員がすぐに確認できるようファイルにまとめ、変更時などは管理者やリーダーより申し送りがあり、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意とすることを把握し、出来る役割をお願いしている。また、興味や意向を取り入れながら、楽しみにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じた柔軟な外出支援を実施している。ユニットごとに出かけるのではなく交流を深めるためにユニット合同で外出をし、個別の外出支援を行っている。	利用者の楽しみのひとつとして、外出行事は特に重点的に取り組んでいます。季節ごとに公園や外食に出かけたり、地域行事に参加するようにしています。外出先では、普段みられないような利用者の喜ぶ姿が、記録からも視認されました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人または家族の希望に応じてお金を所持してもらい、使える場を提供している。個人で管理できない場合は、家族の承諾の上、お小遣い金として管理し、ほしい物や必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時には自由に連絡をとれるよう取り次ぎをしている。また、手紙やはがきのやり取りをしている人は、宛名の確認や投函を手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの大きさは車椅子が入りやすい広さを確保し、気持ち良く排泄ができるよう扇風機を使用して温度管理をしている。季節を感じられる展示物を用意し、大きな窓から自然光が入りやすいような設計になっている。	共用空間にできる限り人が集まるようにとテレビを2台備え、定期的にレイアウトを変更して雰囲気を更新しています。ススキなど季節の飾り付けもおこなわれ、玄関には、利用者家族が差し入れてくれた生花が飾られています。廊下は白熱灯で自然な明かりが優しく感じられました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内の家具の配置は利用者に危険がないよう十分に考え、身体機能に合わせた物を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が暮らしやすいように家族の理解と協力をいただき、馴染みの物を持ち込んでもらうなどして利用者が暮らしやすいように配置している。	居室には手すりが設置され、机や小物入れなどが予め備えられています。利用者には使い慣れたタンスなどの家具を持ち込んでもらったり、好みの品を持ち込んでもらっています。布団で寝起きする利用者にはマットを敷いて馴染みの就寝が継続できるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、利用者の出来る事が増えるよう手すりの設置を行い、安全で自立できる生活の実現に取り組んでいる。また、どのようにしたら出来る事が増えるのかを考え、工夫した環境づくりに努めている。		